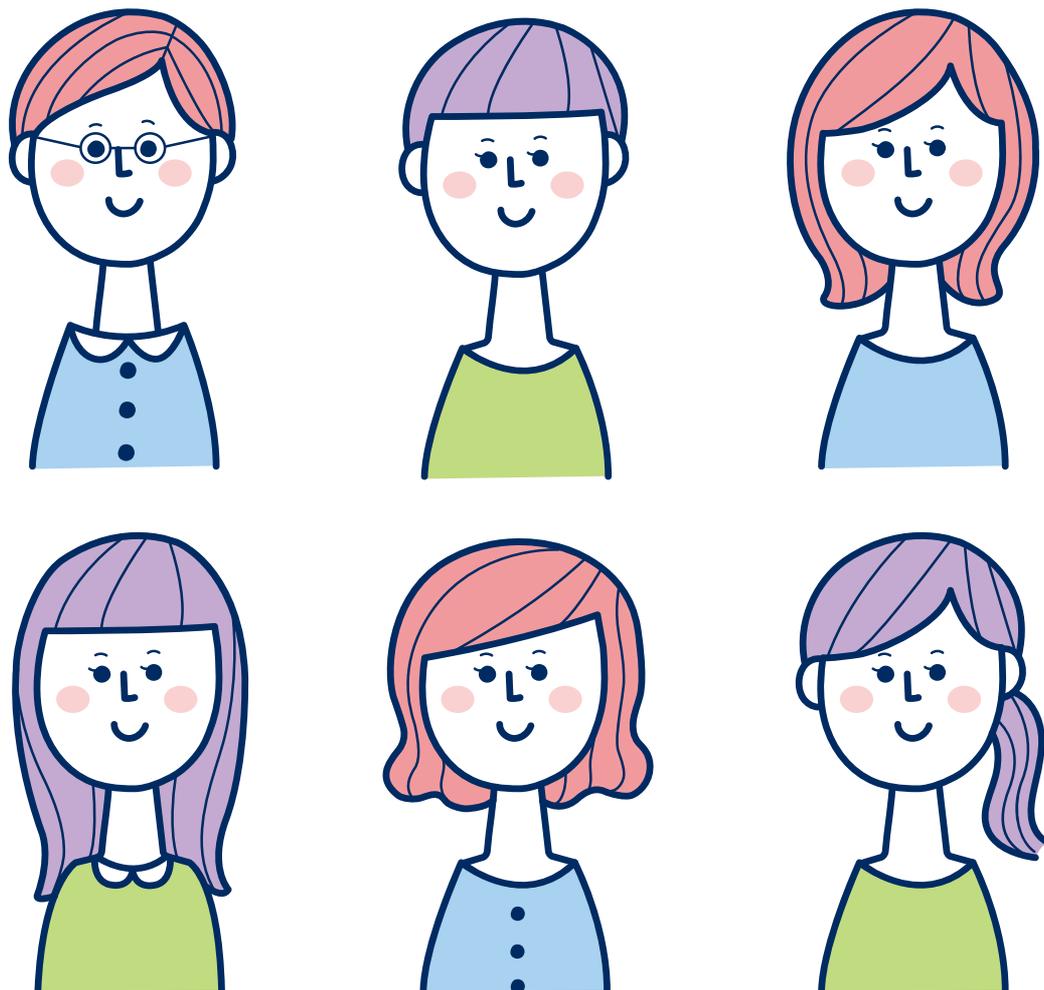


女性特有のがんは早期発見が大切です 乳がん・子宮頸がん検診のご案内



女性特有のがんは増えており、若年層での罹患も少なくありません。ほとんどが初期には自覚症状がないこともあり、20～50歳代の働き盛りの女性は、つい検診を先送りにしがちです。「みつかったらこわい」という方もいらっしゃいますが、乳がんや子宮頸がんの治療は近年めざましく進歩しており、必要以上に恐れる病気ではなくなっています。早くみつけるほど治療も体に負担の少ないものになりますし、社会復帰も早くなります。

共同印刷グループと共同印刷健康保険組合は、女性特有のがんへの対応として、女性従業員(被保険者)と女性のご家族(被扶養者)の乳がん・子宮頸がん検診を実施しています。複数の選択肢があり、ご自分にあった検診を選ぶことができます。

安心ですこやかな毎日のために、定期的に検診を受けましょう

共同印刷グループ・共同印刷健康保険組合

共同印刷グループの女性従業員の検診

検診運営 共同印刷グループ(①と②の委託先は一般財団法人日本予防医学協会)

対象年齢 乳がん………35歳以上
子宮頸がん…20歳以上

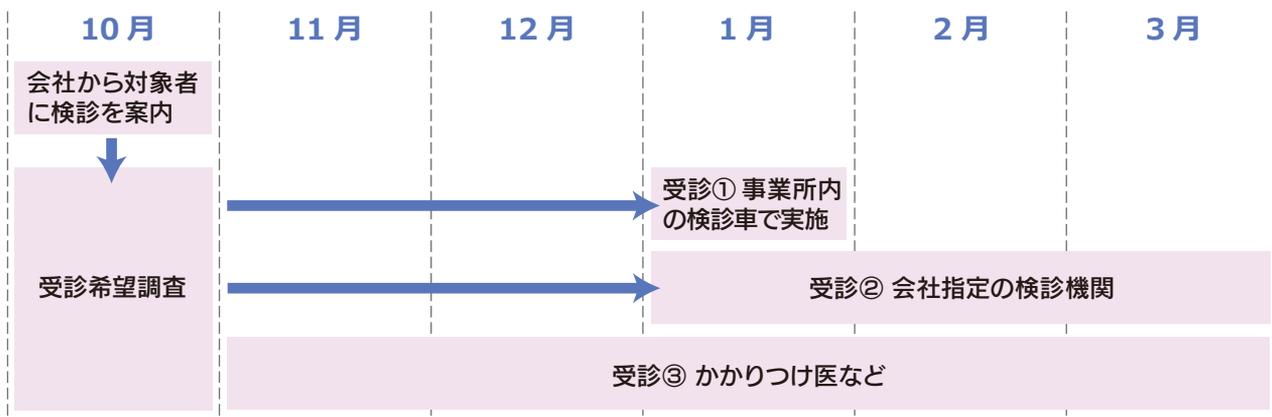
- 受診先**
- ① **事業所内の検診車で実施**
 - ・職場で受けられる
 - ・所要約30分
 - ② **会社指定の検診機関**
 - ・検診機関を選べる
 - ・自分で受診日時を決められる
 - ③ **かかりつけ医など**
 - ・検診履歴があれば過去のデータと比較ができる

費用

- ① ② 無料
- ③ 検査後、受診結果と領収書等を会社に提出すると費用補助が受けられる
(乳がん検診最大5,500円、子宮頸がん検診最大7,000円)

検査方法 乳がん………乳房X線検査(マンモグラフィ)
子宮頸がん…細胞診検査(医師による細胞の採取)

★ 2023年度 受診の流れ ★



※2024年度以降は、毎年6月にご案内し、翌年の3月までを ②会社指定の検診機関および ③かかりつけ医の受診期間とします。①巡回検診は9～10月にご案内・申し込みを行い、12月の実施を予定しています。
※①を実施する事業所は申込数に応じて決定します。



乳がん検診・子宮頸がん検診は 定期的な受診が大切です

女性特有のがんは早期で見つかるほど治癒の可能性が高まります。また検査を行うことで死亡率が低減することも確かめられているため、厚生労働省は乳がん、子宮頸がんとも2年に1回は検査を受けることを推奨しています。

こちらでご案内している会社や健保組合での検診が受けられない場合も、お住まいの自治体で乳がん検診・子宮頸がん検診を実施している場合がありますので、受診可能な施設で定期的にチェックを受けましょう。

女性のご家族(健保組合の被扶養者)の検診

- 検診運営** 共同印刷健康保険組合(委託先は一般社団法人東京都総合健保組合保健施設振興協会)
- 対象年齢** 乳がん………30歳以上
子宮頸がん…30歳以上
- 受診先** 毎年の「婦人健診」(生活習慣病健診)時にあわせて受診
・「婦人健診」の案内に記載されている健診会場から選べる
- 費用** 無料
- 検査方法** 乳がん………乳房X線検査(マンモグラフィ)と乳房超音波検査(エコー)の2つから選択
子宮頸がん…細胞診検査(医師による細胞の採取)

★ 受診の流れ ★

毎年6月
健保組合から対象者の自宅
に案内・申込書を郵送

毎年6~7月
健診会場を指定して申し込み(郵送・WEB)

毎年10月1日~翌2月28日
受診(日程は健診機関から連絡あり)

働き盛りの女性に増える「がん」を検診で見つけて治しましょう!

女性の部位別がん罹患数をみると、「乳房」が最も多く(資料1)、女性のがん罹患全体のうち22.5%を占めています。生涯で罹患するリスクは9人に1人と、女性のなかでは珍しくない病気という状況になっています。とくに30歳代後半から急激に増加し、60歳代後半から70歳代前半でピークを迎えます。

子宮頸がんは若い世代の発症も多く、20歳代後半から増加し、40歳代がピークになっています。

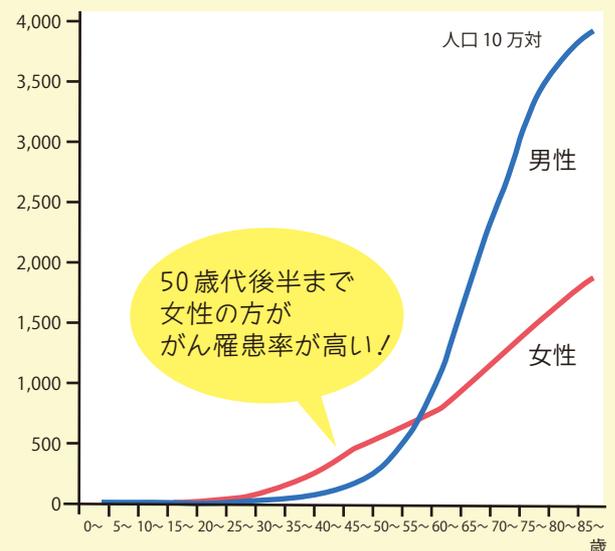
乳がんも、子宮頸がんも、検診による早期発見で治る確率が高まることが実証されているにもかかわらず、日本女性の検診受診率の低さが指摘されています。諸外国と比べて日本のがん検診受診率はとても低く、男性より女性の検診受診率が低くなっています。とりわけ乳がんと子宮頸がんの受診率については依然として50%に満たず、欧米諸国の半分以下となっています。

ところが50歳代後半までは、男性より女性の方ががんの罹患率が高いのです(資料2)。20~50歳代、つまり働き盛りの女性こそ定期的ながん検診が必要といえます。

【資料1】
女性の部位別がん罹患数
(がんの統計2023より)

1位	乳房	97,142
2位	大腸	67,753
3位	肺	42,221
4位	胃	38,994
5位	子宮	29,136

【資料2】年齢別がん罹患率2019年(がんの統計2023より)



「HPV (ヒトパピローマウイルス) 検査」(子宮頸がん) が 受けられるようになります

子宮頸がんは、HPV (ヒトパピローマウイルス) の感染で引き起こされることがわかっています。

共同印刷健康保険組合では、このHPVの存在を確認する検査「&Scan (アンドスキャン)」を2023年10月より導入します。

HPVは一般的なウイルスで、性交渉のある女性なら一生のうちに8割の人が感染するといわれていますが、感染しても多くは自然に排除されます。しかし、ごく一部で感染が長期化し、子宮頸がんに進行することがあります。

このように、子宮頸がんは発生の原因やプロセスがほぼ明らかになっており、他のがんと比べて予防や早期発見がしやすいといえます。また若い世代(20~30歳代)でも多くの発症があり、20歳を過ぎたら定期的に検査を行うことが望ましいとされています。

郵送検診ですので、ご自宅で好きなときに簡単に行えますので、この機会にぜひ検査を受けてください。10月に健保組合から詳細をご案内します。

検診運営 共同印刷健康保険組合(検査委託先はハッチヘルスケア株式会社)

対象者 共同印刷健康保険組合の20歳以上の被保険者・被扶養者

費用 無料

検査方法

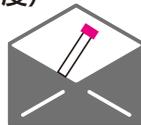
1 WEBで申し込み



2 自宅に検査キットが郵送される



3 子宮頸部付近から粘液を採取し返送(採取時間は3分程度)



4 結果は後日WEBで確認



女性特有のがんについての動画を 10月に配信予定です

「乳がん・子宮頸がんとはどのような病気か」「乳がん検診・子宮頸がん検診はどのようなことを行う検査か」といったことについて、婦人科の女性医師がわかりやすく説明する動画を制作中です。

あわせて、HPV検査の詳しい説明の動画も制作しております。10月に会社のイントラや健保組合のホームページで配信予定です。



【問い合わせ先】

女性従業員の検診

女性のご家族の検診・HPV検査

共同印刷(株)人事部労政課 rousei_ka@kyodoprinting.co.jp

共同印刷健康保険組合 kenpo@kyodoprinting.co.jp